

総合的な学習の時間 学習指導案  
**単元名「地域活性化プロジェクト～地域を見つめ直そう～」**

期 日 令和元年11月8日(金)  
 場 所 3年A組教室  
 学 級 3年A組  
 男子17名 女子13名 合計30名  
 指導者 八重樫 善則

1 単元設定の理由について

(1) 生徒の実態及びこれまでの学習過程について

第3学年の探究課題は、「地域のすばらしさと地域活性化のために取り組んでいる人々」である。また、本単元「地域活性化プロジェクト～地域を見つめ直そう～」は、本校の3年間の総合的な学習の時間の、総仕上げとして位置付けている。

生徒たちは、1年生で「地域で働く人々」から働くことの意味や地域への思いを学んだ。2年生では「人の生き方」を知ることで、自らの生き方について考え始めた。そして3年生になった今年度はもう一度地域を見つめ直し、地域の一員として今の自分たちにできることを考える活動を通して、自己の生き方についてより深く探究することになる。

総合的な学習の時間に関わる資質・能力について全国学力・学習状況調査の質問紙調査や学校独自に実施したアンケートを参考に分析を行った。「総合的な学習の時間が好きだ」や「授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ」、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」などの設問に対しては肯定的な解答が多く、探究的な学習に対する意識は高い。しかし、地域行事への参加率は高いものの、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」生徒の割合はそれほど高くなく、「将来の夢や目標を持っている」生徒は半数に留まるという実態がある。普段の授業の様子からは物事を深く思考したり、自分の考えを表現したりする力が弱いことが分かった。また、江刺の魅力として、環境要因に着目する生徒は多いが、人的要因をあげる生徒は少ない。以上の実態を踏まえ、地域を見つめ直す活動を通して、積極的な社会参画や自らの将来についても考えを深める機会としたい。

(参考資料) 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 (令和元年度8月 3年生を対象に実施)

質問番号	質問事項	選択肢			
		1	2	3	4
H31 2(8)	将来の夢や目標を持っている	30.0 44.9	20.0 25.6	36.7 17.9	13.3 11.5
H31 4(23)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	33.3 21.0	33.3 29.6	20.0 26.1	13.3 23.2
H31 4(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	6.7 11.5	46.7 27.9	43.3 38.9	3.3 21.6
H31 7(3)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	30.0 20.3	53.3 41.2	16.7 28.9	0.0 9.4
R1 H289(44)	「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ	20.0 26.0	53.3 42.3	26.7 21.8	0.0 9.7
R1 H289(45)	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ	43.3 25.8	56.7 47.0	0.0 20.0	0.0 6.9

(1:当てはまる 2:どちらかといえば、当てはまる 3:どちらかといえば、当てはまらない 4:当てはまらない)  
 (1段目:本校の生徒数の割合(%) 2段目:全国(公立)の生徒数の割合)

## (2) 題材について

本校は江刺の4割強を占める広い学区をもち、伝統芸能や第一次産業が盛んな地域にある。特に、江刺金札米や江刺牛、江刺りんごなどは全国的に評価が高く、県内だけでなく全国でも有名なブランド品として流通している。

江刺の魅力と課題の両面についてイメージマップ作り、地域の課題に対して今の自分たちができることを考える中で生徒は、1学期の修学旅行で、江刺の特産品を扱う企業を訪問して学んだことから視点を得て、「江刺の魅力を全国に発信しよう」というゴールを設定した。

自分たちが生きる地域には、内側から見れば過疎地域として多くの課題がある一方で、全国に流通している高品質の農産物に対しての、外部からの高い評価がある。また、目に見える農産物のすばらしさを支えているのは、目に見えない生産者の熱い思いや努力、長い年月守り続けられた江刺の自然や環境である。「地域を見つめ直す」という活動を通して、卒業を控えた3年生に、ふるさとを愛する思いも育てていきたい。

## (3) 指導について

中学生にとって「地域を見つめ直す」ということは、自分と深く関わる具体性のある課題に出会って、初めて意識化されることではないか。地域の魅力を発信する探究的な学習過程において、第1単元では地域の特産品やその魅力を知るために、講話やインタビュー、見学や訪問を行う。この活動を通して地域の課題とPRしたい魅力について考えを深めながら、情報収集や整理・分析を行い、まずは仲間に分かりやすく伝える力を育成したいと考える。そして、第2単元ではプロジェクトの実行に向け主体的・協働的に取り組む活動を通して、地域と自己の生き方の関わりについて考えることにつなげたい。さらに、地域の一員として持続可能な社会の実現に向けて、積極的に社会に参画しようとする態度を養う単元としたい。

また、課題を多面的に捉えるためにウェビングを用いるなど、必要に応じて思考ツールを活用できるよう、これまでの学習の振り返りも行いながら学習を進めたい。そして、自分たちで計画を立てて実行することで、自身の資質・能力の高まりを実感したり、仲間との協働による一体感や達成感を味わったりしながら、考えの広がりや深まりを感じる振り返り活動を目指す。

## 2 単元目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域活性化の方法や持続可能な社会の実現について学ぶ総合的な学習を通して、多面的・多角的に物事を捉えたり、根拠を明らかにしたりしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

		育成を目指す資質・能力
知識及び技能		・生産者と流通者の努力や商品開発に携わる方の思いに触れ、地域の魅力を発信する取り組みを通して江刺地域の環境のよさや様々な人の思いや連携・協力があるといった環境要因や人的要因があることに気付く。
思考力、 判断力、 表現力等	課題の設定	・課題解決のために複数の解決方法から適切な方法を選び、探究計画を作成する。
	情報の収集	・インターネットやアンケート調査、インタビュー活動など目的に応じて情報を収集する。
	整理・分析	・生産者や流通者など様々な立場の人の思いや考えを比較・分類する。 ・調べた情報からプロジェクト内容に活かすように分析する。
	まとめ・表現	・調べたことについて視点をもとに簡潔に表現し、仲間に伝える。 ・江刺の特産品の特徴やよさをお客さんに分かりやすいように伝える。
学びに向かう力、 人間性等		・地域の人・もの・ことについて探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、特色を発揮する地域創りを実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする意欲をもつ。

### 3 単元構想図（別紙資料）

#### 4 本時について

##### （1）主題 「江刺のよさをPRする方法を考える」

##### （2）指導目標

地域活性化プロジェクトの各グループの具体的な計画について相互評価する活動を通して、「地域活性化につながるか」、「ふるさと江刺のよさを発信できるか」という二つの視点で、より具体的で効果的な方法について検討することができる。その際に、他者との関わり合いの中で自他との違いを認めたり、自分の考えを捉え直したりしながら協働的に活動を進めることができる。

##### （3）本時の評価規準

知識・技能	
思考・判断・表現	・地域活性化の視点と、地域のよさを発信するという二つの視点で計画を相互評価することを通して、よりよいPR方法を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・グループの計画の相互評価に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの考えや思いを尊重し、互いのよさを生かしながら活動を進めることができる。

##### （4）本時の指導構想

収集した情報をもとに各グループで立案した、「地域活性化プロジェクト」の具体案について、発表し合い相互評価し合う。その際に、どのような視点で評価し合えばよいか、地域が抱える課題について振り返らせたり、プロジェクトの目的を再確認したりすることを通して、特産品をPRするという活動の中に、「地域のよさについても発信する」という視点と、「地域の活性化につなげる」という二つの視点が必要であることに気付かせる。

二つの視点に沿ってお互いの計画について検討する中で、方法そのものについて話し合うのではなく、「説明をたくさんするより、見てわかりやすい方が伝わる」「地域の方に手伝いを頼んで一緒にやれば絆が生まれる」など、より具体的な要素について話し合いを深めさせたい。そして、振り返りの場面ではその具体的な要素が表出してイメージが高まり、今後の活動に意欲を感じられるような時間としたい。

次時には本時の相互評価をもとに計画の最終段階に入り、いよいよ「地域活性化プロジェクト」が本格的に始動する。本時で確認できた二つの視点と具体的な要素については、単元の終末まで一貫して意識させたい。

(5) 本時の展開

過程	学習活動	支援及び評価
導入 (3分)	1 江刺の特産品をPRするためにイメージを膨らませてきたことを確認する。 2 課題を把握する。	1 江刺の特産品をPRする意義について問いかけ、本時の課題につなげる。
<b>学習課題 お互いのプランを検討し合い、よりよいものに高めよう。</b>		
展開 (40分)	3 相互評価の視点について考える。 ・どんなプランを「よい」と判断するのかそれはなぜか。 ・プロジェクト実現のためにクリアしなければならないことは何か (5分) 4 各グループのプレゼン (2分) ・ポイントを絞ってプレゼンする。 ・聞き手はよい点、改善点、疑問点を付箋に記入しながらプレゼンを聞く。(気付いた点だけ) 5 自由交流 (7分×2) ・グループ内のメンバーを前半と後半2つに分ける。 ・交流では、付箋を渡してコメントを伝えたり質疑をしたりする。 ・残ったメンバーは質疑に応じる。 6 グループのプランの再検討 (10分) ・グループごとに、もらったコメントやアドバイス、質疑などをもとに、プランを再検討するポイントを確認する。(次時の課題設定)	3 プロジェクトの目的、実行までの見通しなどを考えることで必要な視点に気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             ◎江刺のよさが伝わるか。              ◎地域活性化に結び付くか。              ○自分たちで実現可能か(時間、予算等)。           </div> 【思考・判断・表現】 4 概要をプレゼンする ・視覚に訴える補助資料と説明用のフローチャートを使ってプレゼンする。 ・プレゼンも付箋記入も、評価の視点に沿って行う。 5 交流は時間を決めて入れ替え、どの生徒両方を体験できるようにする。 ※二つの視点をもって交流できているか。 ※お互いのよさを認め合いながら、協働的に活動できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 6 プランを再検討するポイント、方向性などをグループ内で確認し、次時に何をするかを考える。
終末 (7分)	7 振り返り ・本時の学習について以下の項目について振り返り、発表し合い学びを共有する。	7 振り返り の③についてのみ発表させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;">             ① 「地域のおよさの発信」の視点で現時点でのグループのプランはどうですか? A B C              それはなぜですか?              ② 「地域の活性化」の視点で、現時点でのグループのプランはどうですか? A B C              それはなぜですか?              ③ グループの話し合いや全体交流で気付いたことや考えが深まったことはどんなことですか。              ・特産品のPR方法は、たくさん説明するのではなく、視覚に訴える方が伝わったと思った。              ・自分たちだけでPRするのではなく、江刺地域の方を巻き込んで行うとより盛り上がるのではと思った。           </div>

単元構想図（第3学年）

